

私たちが、むらかみに 移住しました

大都市への人口集中と急速な少子高齢化が進む中、地方では人口減少が進んでいます。市も、地域の活力を失いかねない人口減少問題に対処するため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、産業の活性化や交流人口の拡大、子育ての安心づくりなどに取り組んでいるところで

す。そのような中で、今号では、村上に魅せられて移住を決意した若者にスポットを当て、村上に移住した理由をお聞きしました。

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、テレワークやサテライトオフィスなどが少しずつ普及し、在宅勤務をしている人が都市部を中心に増えています。どこでも仕事ができるという考えが広がれば、地方でも今の仕事を続けながら、村上に住むことが可能となります。

今回、紹介する若い移住者が感じていることなどが今後、大きなヒントになるのかもしれない。



自然の中で人が 生きている

笹川流れは、 海を旅した私を魅了しました

元々シーカヤックが大好きだった私は、人に教える仕事をしたいと思い、北海道でシーカヤックのガイドを2年間やりました。その後、旅をしながら自分の好きなまちを見つけ、そこに住んでみたいという思いから、本州と北海道をシーカヤックで一周しました。その中で、笹川流れに立ち寄った際、海と山が近く、自然の中で人が生きていることにも魅力を感じ、ここでシーカヤックを教える仕事をしたいと思いました。笹川流れはシーカヤックを着けられる浜があちこちにあつて地形が適していることや、山形県から新潟県にかけては、シーカヤックツアーの空白地帯であることなど、さまざま

笹川流れカヤックセンター

飯山 達哉さん 29歳
(神奈川県小田原市出身／桑川在住)

まな条件がそろっていたことも移住を決めた理由です。

移住してからは、遊覧船の仕事をしながら、開業に向けて住居兼店舗の改装を自分でやっていたので、すごく忙しかったです。そして、今年の7月によくやく笹川流れカヤックセンターをオープンすることができました。今は、遊覧船の仕事と掛け持ちしていますが、お客さんがどこから来ているのか、どんなお客さんが多いのかといった情報を遊覧船で収集できるので、シーカヤックの仕事にも役立っています。

移住して感じたのは、とにかく食べ物がおいしいこと。地元食材を使ったイタリアンレストランによく行きます。それと、漁師さんたちが優しい。ヨソモノの僕を気にかけてくれ、漁師さんたちの仕事場（海）にお邪魔する僕のことを受け入れてくれています。また、想定外だったのが、思っていたよりも猿などの動物が出るので野菜の栽培が大変なことです。

これから、僕が初めてシーカヤックに乗った時に感じた世界が広がるような感動を多くの人に味わっていただきために、この仕事を続けていきたいと思っています。また、地元の人にもシーカヤックでしか味わえない地元を知ってもらいたい気持ちもあります。シーカヤックの魅力は、

歩くような感覚で海の上を散歩できることです。今まで陸地しかなかった世界観が一気に広がりますよ。ぜひ、笹川流れでシーカヤックを体験していただき、感動の初めの一步を踏み出していただけたら嬉しいです。

【笹川流れカヤックセンター】

- 営業期間 4月～10月
- 営業時間 午前8時～午後6時
- 定休日 不定休
- 住所 桑川936-1
- 電話 080-8097-9035
- 体験メニュー
半日ツアーで1日2部開催
(午前8時30分～正午、午後1時～4時30分)
- 料金 大人(中学生以上) 6,000円
小学生3,000円 幼児無料
- その他
初めての人に感動を味わっていただくことを大切にしていますので、初心者大歓迎です。



パークで えたい

スケートパークを「聖地」として ブランディングしたい

私は、福島県の郡山市出身なのですが、村上市出身の知人を介してJSF 副代表理事の平野英功さんを紹介していただき、その理念に共感してJSF（日本スケートボーディング連盟）のお手伝いをしています。村上に来る前は、リクルートのエゴペーパーというグルメ媒体の営業や製作、docomoの法人渉外担当などを行っていました。大きい企業でしたので、業務の型や理念、風土が固まった中での仕事でした。今携わっている業務のように、事業に伴うスポンサー企業の誘致から大会の計画や運営、競技のライセンス化やメロサイトの構築など「ゼロ」から自分の色を出せる仕事をやらせていただくことに新鮮さを感じていますし、すぐやりがいがあります。

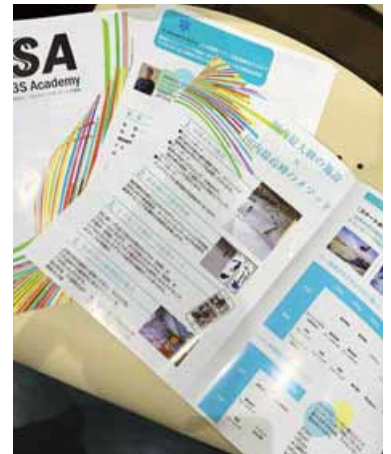


さとう りゅうた
佐藤 龍太さん 28歳
(福島県郡山市出身／岩船縦新町在住)

村上に来て1年が過ぎましたが、目まぐるしく変わる情勢の中、見立っていた構想に一步ずつ着実に近づいています。今は、コロナ禍により付加価値の創出に取り組むことも必要とされますが、逆に新しい生活様式にコミットして好転した部分もあり、今のトレンドに順応しながら対応しています。

村上に移住して思うことは、とても住みやすく景色がきれい、人の温かさも感じます。美味しいものがたくさんあり、移住後半年ぐらい食歩きをして楽しんだ結果、かなり太ってしまいました。今は自炊をしながらダイエットに励んでいます。自然や食の水準の高さなど、住んでみてわかる村上市の持つ強みはたくさんあります。しかし、現状は、残念ながら住む前には気が付かない状態です。今、地方へ移住するというニーズが顕在化している中、早期にアプローチを能動的に行うことが必要ではないかと思っています。

スケートボードは、現在のバスケット



トボールのように、競技として飛躍を遂げるスポーツだと想定しています。村上にはそのスケートボードの競技施設「スケートパーク」という素晴らしいシンボルがあります。素人の目にもわかる国内最高峰の施設だと感じています。このような素晴らしい施設を、スポーツとしての歴史が浅いスケートボードのために建設したところを察するに、スケートボードの聖地としてブランディングを行うという強い覚悟を感じます。私もスケーターの聖地として、村上に対するブランドイメージや共感・信頼を得られるように協力していきたいと思っています。そして、村上へさまざまな波及効果を創出し、スケーターのみならず、市民の皆さんにも意義のある取り組みをしていきます。

村上は城下町ならではの道が残り、よく迷子になります。そんな私を見つけたら、ぜひ声をかけてください。



スケートボード関係のパンフレットなども作成し、競技人口増加を図っています

スケート 夢を叶

自分が携わり、村上から 優秀な選手を輩出することが夢

今から3年前、村上在住の知人から平野英功さんを紹介していただき、スケートボードとスノーボードに関わる仕事をさせていただいています。私は北海道の札幌市に生まれ、6歳から始めたスノーボードにのめり込み、ハーフパイプの選手を夢見て11歳から本格的に競技を始めました。スケートボードとの出会いもその頃です。

ここに来る前は、石油関連設備の会社で働きながらスノーボード競技を続け、FISスノーボードジャパンカップ2015ハーフパイプで6位入賞、BURTON EURO OPENでは12位に入るなど、とても有意義な時間を過ごしてきました。以前からヨーロッパ、アメリカ、

南半球のコンテストに参戦していた経験を活かした仕事をしたいと考えていました。そんな時、競技者時代から親交のあった知人から平野さんの取り組みを聞き「よし、村上へ行くこと」と、住んでいた札幌を離れ村上への移住を決めました。

皆さんご存知のように、夏の北海道は梅雨がなく、暑さもそれほどではありません。ですから、移住したての頃は村上の暑さや梅雨時期の湿気に戸惑いました。だけど、瓦屋根の家や、城下町特有の町並みは北海道では見れないので、すごく新鮮に感じました。地域の人も温かく感じています。

現在は、スケートボードとスノーボードを中心とした生活を送っています。スケートパークでは水曜日にスクールを開催していますが、地域の人はもちろん、遠方から参加してくれる人も多く、回を重ねるごとに上達していく子どもたちを見ていると、すごくやりがいを感じます。開志国際高等学校スケートボード部の指導にも携っており、青森スプリン



毎週水曜日、スケートボード初心者体験スクールで講師をしています

グリゾートでの合宿や研修、旧日本海スケートパーク内バグジャンプで技術の指導も行っています。この村上も若者の流出が大きな課題になっているようです。私がスケートボードとスノーボードに携わっている中で感じることは、若者が興味を持ちそうなことがこの2つのほかに少ないように感じます。観光客を誘客して村上を知ってもらえるのも良いと思いますが、若者が活躍できる村上にしかない場（仕事や実務的に能力や経験を活かせる場）があれば、若者の流出の歯止めとなり、移住者も増えてくると思っています。

今後の目標としては、スケートボードとスノーボードの競技人口を増加させ、村上から優秀な選手を輩出してきたいです。また、両競技の映像作成などにも取り組みたいです。

市民の皆さんからの応援をよろしくお願いいたします。



おさない しゅうへい
小山内 修平さん 25歳
(北海道札幌市出身/石原在住)

